

事業報告書

I. 事業の概要

公益法人として第11期となる令和4年度は、

公1. 奨学金事業として

(1) 県内在住18名の高校奨学生に奨学金を給付した。

(2) 奨学生同志の交流を深めるため懇親会を2回開催した。

公2. 奈良県立橿原考古学研究所へ学術研究の為の書籍の寄贈は休止した。

公3. 公益財団法人京都大学iPS細胞研究財団に研究助成金の寄付をした。

II. 事業活動

公1. 奨学金事業

(1) 新採用の6名を含めて計18名の高等学校奨学生に対し月額3万円を給付した。

(2) 奨学生同士の交流を深めるため懇親会を2回開催した。

《第1回》

令和4年8月20日(土)開催 在学奨学生9名・卒業生7名・財団関係者4名 / 計20名参加

・当日は、三密を避け、消毒やマスクをし、コロナ対策を行い、参加者全員での自己紹介から始まった。午後からの話し合いのテーマは、参加者の多数決でテーマ候補の中から、「コロナウィルスが日本で確認されてから2年7ヶ月ほど経ちましたが、今みなさんはどのくらいコロナウィルスを意識されていますか?」について話すことになり、参加者全員が、コロナ禍の中における各々の日常について思いを語りあった。

《第2回》

令和5年3月25日(土)開催 在学奨学生16名・卒業生6名・財団関係者3名 / 計25名参加

・当日は、三密を避け、消毒やマスクをし、恒例の参加者全員での自己紹介を開始した。午後からの話し合いについては、開催前に奨学生からメールで寄せられたテーマ候補の中から、当日、社会的なテーマとして、「マスクの着用について、どのような基準で着用するかしないか判断していますか?」を多数決で選択した。前回に引き続きコロナ感染についての話し合いとなったが、コロナウィルスに対する恐怖感は薄れ、次は感染が落ち着いた後のマスクを外すタイミングに悩んでいるように感じられた。

公2. 奈良県橿原考古学研究所へ学术研究の為の書籍寄贈は休止

公3. 公益財団法人 iPS 細胞研究財団に研究助成金の寄付をした。